

建設・工務店 | 施工実績・職人・安全文化を自社で伝える方法

— 現場の工夫を伝える企画と、安全・許可・公開確認の手順。

完成した建物と、仕事の進め方を伝える。

施主候補

相談から完成までの考え方

採用候補者

職人の役割と育成体制

協力会社

連携や現場の進め方

見る人を一本ごとに決め、必要な情報へ絞ります。

相手を決めると、**伝えたい工夫**がはっきりします。

現場を撮る前に、安全と許可を確認する。

撮影前の合意

- 施主・元請・現場責任者の確認
- 撮影できる場所と時間
- 映してよい情報と公開範囲
- 中止を判断する担当者

本資料は撮影運用の提案です。実際の作業手順と現場の安全指示を優先します。

安全と合意を土台に、無理なく撮影を進めましょう。

施工事例は、条件と工夫をセットで説明する。

台本の順序

- 施主が抱えていた課題
- 敷地や用途などの条件
- 提案した考え方
- 施工で工夫した点
- 相談時に確認したいこと

一つの施工例を、すべての建物に当てはまる成果として見せないようにします。

条件を添えた説明が、**相談の判断材料**になります。

職人の判断を、具体的な問いで引き出す。

インタビューの例

- 作業前に何を確かめていますか
- 次の工程へ渡すときに注意することは
- 新人が最初に覚えることは
- 困ったときは誰に相談しますか

人物の魅力と仕事の判断を、短い一問一答で伝えます。

現場の言葉から、仕事の価値を伝えていきましょう。

制作実務と育成実務を、 同じ流れで教えられる。

ショート動画屋さんは、広告、SNS運用、通販、営業、採用など目的の異なる動画を
200社以上・3,000本以上制作してきました。

ディレクター・構成・撮影・編集を分け、複数人で速く品質を揃える制作フローを運用しています。

制作フロー（役割を分けて、速く品質を揃える）

ディレクター

目的・ターゲット・
企画の方向性を
決める

構成

台本・構成案を
作成する

撮影

構成に基づき
撮影する

編集

カット・テロップ・
BGMなどを整え
仕上げる

内製化支援での引き継ぎ

実際に制作へ携わる担当者が、
この流れを企業の人員・目的・
頻度に合わせて移します。

実際の流れをそのまま社内で再現し、**制作を続けられる体制**をつくりましょう。

安全文化は、日々の確認から伝える。

企画候補

- 作業前の打ち合わせ
- 保護具や道具の点検
- 危険を共有する方法
- 新人への説明の仕組み

撮影のために危険な作業を繰り返さず、必要なら作業のない場所で説明を収録します。

日々の小さな確認にも、**会社の姿勢**が表れます。

撮影者の動線を、現場の作業から分ける。

実務上のチェック

- 立入可能な範囲
- 重機や車両の動き
- 足元・資材・配線の状態
- 撮影機材の置き場
- 作業を止める際の連絡方法

現場責任者と事前に確認し、無理な画角を優先しない計画を立てます。

安全に撮れる計画で、**現場の仕事を大切に**しましょう。

場所を特定する情報まで、公開範囲に入れる。

確認する映り込み

- 表札・住所・車両番号
- 図面・工程表・連絡先
- 施主や近隣の人物
- 防犯設備や建物内部の詳細

撮影許可があっても、公開する内容と媒体まで合意できているかを確認します。

公開する範囲までそろえて、安心して紹介できる素材を残しましょう。

性能や費用は、条件を省かず伝える。

確認するもの

- どの仕様や試験に基づく説明か
- 施工時期と対象物件
- 価格に含む範囲と含まない範囲
- 標準仕様と追加仕様の違い

強い断定を使う前に社内の根拠資料と照合し、必要に応じて専門担当へ確認します。

確かな情報を伝えて、**納得できる相談**につなげましょう。

比較動画は、比べた条件をそろえる。

点検項目

- 撮影位置・光・尺度
- 比較対象の仕様と時点
- 加工や編集の有無
- 一例であることの説明

違いを強調するために不利な条件を隠さず、判断材料が伝わる構成にします。

同じ条件で見せる工夫が、**分かりやすさ**を支えます。

一つの現場から、**複数の目的**へ展開する。

展開の例

施主向け

課題と施工の工夫

採用向け

職人の役割と教育

協力会社向け

工程間の連携

同じ素材を使う場合も、公開許可の範囲と最新の内容を再確認します。

目的に合わせて、一つの現場の**価値を広げましょう。**

問い合わせの質と、現場の負担を見る。

振り返る項目

- 相談内容が具体的になったか
- 見積もり前の誤解が減ったか
- 採用面談で仕事内容が伝わったか
- 撮影と確認にかかった時間
- 現場からの改善意見

変化は他の営業活動や時期も含めて判断します。

現場と見る人の声から、次の企画を育てましょう。

公開できる一つの工夫から始める。

モデルケース

- 公開許可のある施工例を選ぶ
- 担当者が工夫と条件を説明
- 図面や住所などの映り込みを除く
- 責任者が確認し、相談窓口へつなぐ

導入の進め方の例であり、受注を保証するものではありません。

一つの工夫から、自社の仕事を丁寧^{ていねい}に伝えましょう。

素材を、現場ごとに整理して残す。

保存する情報

- 現場番号と撮影日
- 許可した公開範囲
- 説明内容の確認者
- 公開した動画と版
- 更新・取り下げの連絡先

次の担当者も判断できる形で、素材と記録をまとめます。

記録をそろえると、次の制作も進めやすくなります。

現場への配慮が伝わる、継続的な発信へ。

今日決める5つ

- 最初の視聴者と企画
- 撮影できる現場と許可範囲
- 安全確認と中止の担当者
- 事実・映り込みの確認者
- 公開後の振り返り日

ショート動画屋さんの内製化支援では、貴社に合う役割・手順・改善方法を一緒に設計します。

自社の内製範囲を相談する